

| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
|---|----------------------------------|---------|---------------|--------------|
| 保育の表現技術 I Expression skill of childcare I | | 1年 | 後期 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | 履修上の制限 |
| 1単位 | 演習 | 選択 | (保育士養成課程選択必修) | こどもフィールドのみ |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 音楽表現、ピアノ演奏法 I | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 教職課程（幼稚園教諭二種）、保育士資格取得に必要な科目 | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | | 電話番号・メールアドレス |
| 岡泉志のぶ | 講義棟3階 | 月・水・木・金 | | 授業中に指示します |
| 授業の概要 | | | | |
| 子どもにとって遊びは心身の発達に欠かせないものであり、遊びを表現活動に繋げて展開するためには、保育者の身体的能力や音楽的な能力が必要となってくる。この授業では、音楽、身体表現を主とした基礎的な技術に基づいて、乳幼児の成長と発達を子どもの表現遊びに展開できる技術を身につける。更に、表現活動に関わる指導法と総合的な表現活動へ発展できる保育技術の修得を図る。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ①簡単な拍子でリズム打ちと身体的なリトミックの体験を通して、音楽の楽しさを表現することができるようにする。 ②歌唱や打楽器、鍵盤ハーモニカの奏法と指導法を学び、適切な方法でうたや楽器を指導することができるようにする。 ③子どもの音楽的成長を把握し、年齢に適した楽器やうたを用いて表現活動に応用することができるようにする。 ④日常の保育やお遊戯会、運動会での鼓笛や合奏の指導で、楽器編成や曲の構成を考案することができるようにする。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 演習形式であり、実際に動いたり歌ったりして実践的に授業を行う。発表では、表現活動の指導計画案を各自が作成し、どのように指導していくのか、またどのような援助が必要なのかを考察し、弾き歌いの実践を含めた表現活動のための保育技術を習得する。 | | | | |
| 学習の成果（学習成果） | | | | |
| ①子どもたちと一緒に音楽リズムやリトミックの楽しさを表現することができる。 ②年齢に応じた身体的、音楽的な活動に適した教材の選定と指導法を考案することができる。 ③様々な場面に適した表現活動への展開、及び総合的な表現活動の指導をすることができる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | オリエンテーション：授業概要、評価方法の説明、受講する際の注意点 | | | |
| 第2回目 | 音楽リズム表現① 音符と休符 | | | |
| 第3回目 | 音楽リズム表現② 単純リズムと複合リズム | | | |
| 第4回目 | 音楽リズム表現③ 総合的な音楽リズム | | | |
| 第5回目 | 乳幼児の音楽表現－指導ポイント①－ 日常のうたと手遊びの実践 | | | |
| 第6回目 | 乳幼児の音楽表現－指導ポイント②－ 歌唱表現の指導法 | | | |

| | | |
|--|---|--|
| 第7回目 | 乳幼児の音楽表現－指導ポイント③－ リトミック指導法 | |
| 第8回目 | 季節別の教材と指導法① 日常や行事での音楽活動での指導法（教材の選定、ねらい、留意点） | |
| 第9回目 | 季節別の教材と指導法② 日常や行事での音楽活動での指導法（楽器編成、曲の構成） | |
| 第10回目 | 身体表現を用いた創作表現活動① 選曲と年齢に応じた指導について | |
| 第11回目 | 身体表現を用いた創作表現活動② 総合的なリズム表現について | |
| 第12回目 | 子どもの表現活動について－教材選定①－ | |
| 第13回目 | 子どもの表現活動について－指導法②－ | |
| 第14回目 | 総合的な表現活動の展開①（創作表現の発表 担当教員からの講評を含む） | |
| 第15回目 | 総合的な表現活動の展開②（劇の発表 担当教員からの講評を含む） | |
| 事前・事後学習 | 教材の研究や表現活動に必要な準備を事前学習とする。また、授業の振り返りとして、常にリズムやうたの復習をし、総合的な表現活動に繋がられるようにする。 | |
| 成績評価の方法と基準 | | |
| 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
| 授業参加態度 | 20% | 学習意欲を持って授業に参加し、常に音楽を感じて表現活動ができている。 |
| レポート | 20% | 提出日にきちんと提出されている。 総合的な表現活動としての内容であり、年齢に適した教材の選定と指導法となっている。 |
| 調査報告書 | | |
| 小テスト | | |
| 試験 | | |
| 発表内容（態度含む） | 60% | 総合的な表現活動の展開を、身体的、音楽的に発表できている。（各20点 3回分評価） |
| その他 | | |
| 教科書と参考図書 | | |
| テキスト：幼児のための音楽教育（教育芸術社） | | |
| 履修上の留意点・ルール | | |
| 授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用、飲食は禁止とし、MR I（音楽室）、保育ルームは土足厳禁である。 指導計画案は課題として授業第10回目に提出することとし、提出内容、期限等は必ず守ること。 課題として（特にピアノ初心者の学生）は、譜読みを必要とする。（授業第5、6、7回） | | |